

Gender Equality 2.0からSDGsを展望する—架け橋— 趣旨説明

渡辺美代子

学会会議副会長・JST副理事

2019/7/4
公開シンポジウム GS10フォローアップシンポジウム
@JST東京本部B1大会議室

Gender Summit の目的・意義

2011年発足



Science

Gender

欧州委員会が中心となり発足
欧州・米国に次いで、アフリカ、
アジアへと世界展開中



**男女の差を重要な要因と捉え
研究とイノベーションの質の
向上を目指す**

Gender Summit

科学者

企業

政策
決定者

行動

問題
解決

Gender Summitの特長

- ・ 男女差を認識し、重要な要因と捉える
- ・ 科学技術からスタート
- ・ 多岐にわたる参加者
→ 科学者（文理）、企業、政策決定者、…

問題提起だけではなく、
解決への具体的な行動を目的
としている

Gender Summitの歴史と展開

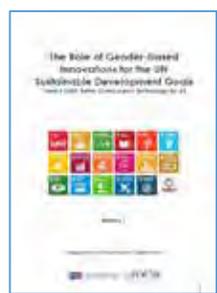
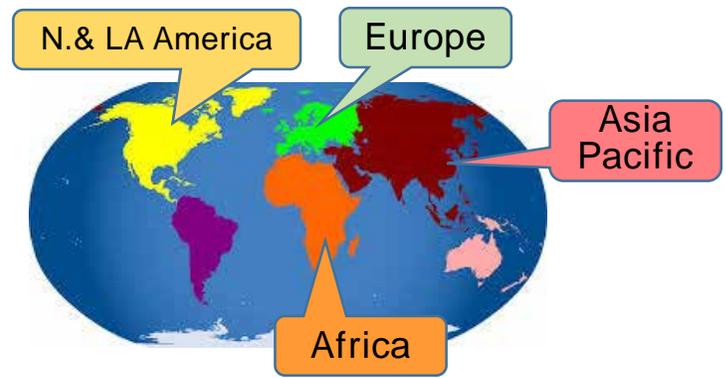
GS1	GS2	GS3	GS4	GS5	GS6	GS7	GS8	GS9	GS10	GS11	GS12	GS13	GS14	GS15	GS16	GS17
																
2011	2012	2013	2014	2015	2015	2015	2016	2016	2017	2017	2017	2017	2018	2018	2019 Aug.	2019 Oct.

EU's Horizon 2020
Gender issues addressed in STI & defined as cross-cutting

Seoul Declaration
Importance of gender-based research and innovation, and criteria for effective multi stakeholder collaboration

Tokyo Recommendation
To accelerate progress and BRIDGE actions towards achieving ambitions of the SDGs agenda

- 1) Gender differences as impact factor for advancing STI
- 2) GE as success factor for interlinking different SDGs
- 3) GE2.0 as diversity factor for improving social inclusion



The Role of Gender-based Innovations for the UN SDGs
Gender research able to improve delivery of SDG targets

ジェンダーサミット 10 アジア太平洋

2017年5月25,26日 一橋講堂にて

“Better Science and Innovation through Gender, Diversity and Inclusive Engagement”

参加者数: 603人 23ヶ国と地域から



特徴

1. アジア（日本）の特徴
2. 114の機関が協力
3. ジェンダー平等の再定義

GS東京宣言：架け橋（BRIDGE）

（ SDGs達成 ）

 SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



視覚障がい研究者の夢が作るイノベーション

浅川智恵子 日本IBM IBMフェロー (GS10 基調講演)

ü障がい武器に新たな開発に取り組み実現

視覚障がい者の障がい： 情報入手 移動の困難

ü技術開発、製品化

HPリーダー等 開発中

ü自らの困難を克服 すべての人のための技術実現



<https://www.youtube.com/watch?v=f-mQIWnO3Ag>



インド地下鉄工事現場総監督の日本人女性技術者

阿部玲子 (株)オリエンタルコンサルタンツ インド現地法人 社長(GS10 招待講演)

ü P日本の大学で(土木)工学博士、現場での限界

ü 海外の土木現場で活躍を蓄積

ü 現在、インドで社長兼現場監督兼技儒者「マダムメトロ」

・インド現場労働者男性400人の上司

・安全管理(目視可能表示,ヘルメット,安全ジャケット,安全靴)

ü コミュニケーションと具体的行動がポイント

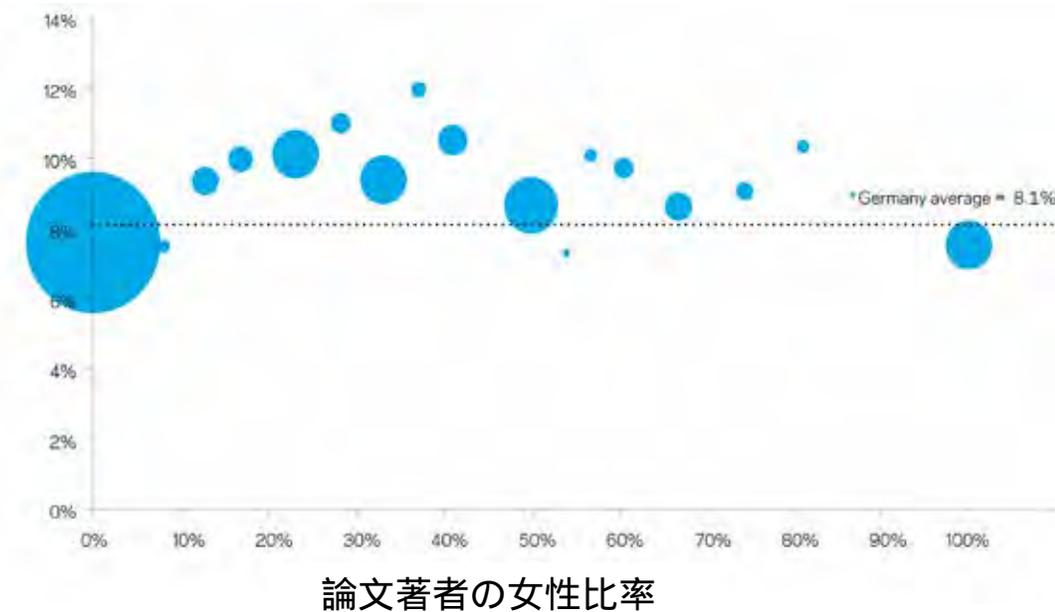


男女共同の強み

論文の場合（ドイツ）

学際研究の著者女性比率とトップ論文割合の関係
男女チームのトップ比率が高い

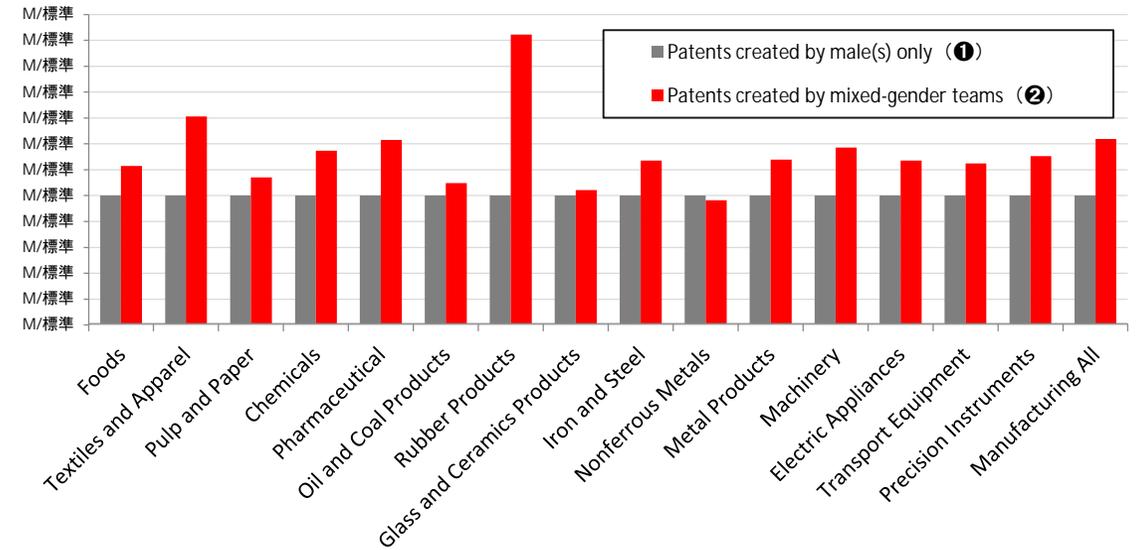
学際研究トップ10%論文の比率



Elsevier "Gender Map 2015"より

特許の場合（日本）

男女チームの価値 / 男性チームの価値 = 1.44 in 2016
1.54 in 2018



Y. Mochi, "Greater Female Presence Means Better Corporate Performance
How Patents Reveal the Contribution of Diversity to Economic Value"

GS10開催後の取組



Gender Summit(GS)10フォローアップシンポジウムを開催し、議論を深める

日本学術会議主催*学術フォーラム
ジェンダー視点が変わる科学・技術の未来
～GS10フォローアップ～

(司会・進行) 松尾 由賀利(日本学術会議第三部委員、法政大学理工学部教授)
開催挨拶 山極 壽一(日本学術会議会長)・濱口 道成(国立研究開発法人科学技術振興機構理事)
来賓挨拶 武川 恵子(内閣府男女共同参画局長)・佐野 太(文部科学省科学技術・学術政策局長)

13:20～14:00 **基調講演**
「Gendered Innovations in Medicine, Machine Learning, and Robotics」
Londa Schiebinger(スタンフォード大学 教授)

14:00～14:40 **各種報告**
「ダイバーシティ推進に関する評価手法」 藤井 良一(日本学術会議第三部委員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構長)
「女性参画拡大により期待されるイノベーション上の利点」
行木 陽子(日本学術会議特任連携委員、日本アイ・ビー・エム株式会社技術理事)
「日本学術会議の取り組み」 三成 美保(日本学術会議副会長・第一部長、奈良女子大学副学長・教授(研究開発推進学系))
「JSTの取り組み」 安孫子 満広(国立研究開発法人科学技術振興機構ダイバーシティ推進室長)

14:55～15:40 **他の団体の取り組みと課題**
「人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会の取り組み」
井野瀬 久美恵(日本学術会議連携委員、早稲田大学学術教授)
「男女共同参画学協会連絡会(理系)の取り組み及び清水建設の取り組み」
寺田 宏(男女共同参画学協会連絡会 委員長、清水建設株式会社経営企画本部部長)
「LIXILの取り組み」 藤森 義明(LIXILグループ 初級役員)
「産学連携(大学と企業の共同研究等)の好事例」 工藤 真由美(日本学術会議連携委員、大阪大学理事・副学長)

15:45～17:00 **パネル討論「多様性の推進が私たちの閉塞感を打破する」**
【パネリスト】 山極 壽一(日本学術会議会長・第二部長、京都大学特任)
濱口 道成(国立研究開発法人科学技術振興機構理事)
高橋 裕子(日本学術会議連携委員、津田塾大学学長、学芸学部教授)
小林 いずみ(日本学術会議特任連携委員、ANAホールディングス株式会社、三井物産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ社外取締役)

【ファシリテーター】 渡辺 美代子(日本学術会議副会長・第三部長、国立研究開発法人科学技術振興機構理事)

●日 時:平成30年6月14日(木) 13:00(開場12:30)～17:00
●場 所:日本学術会議 講堂(東京都港区六本木7-22-34)
東京メトロ千代田線乃木坂駅下車、5番出口(青山公園方面)より徒歩1分
●申込み:下記申込みフォームより6月13日(水)17時までにお申し込みください。
<https://form.cao.go.jp/sci/opinion-0003.html> 参加無料、定員250名・先着順
●問合せ:日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当、電話:03-3403-6295
●共 催:国立研究開発法人科学技術振興機構 ●後 援:内閣府男女共同参画局・文部科学省

GS10フォローアップシンポジウム (2018年度)

2018/6/14 日本学術会議と共催 110名参加

GS10後の取組や進捗、新たな展開を共有し、更なる議論によりジェンダー平等に関する継続的取組の流れを作ることを目指す。

結論

- ・大学、企業、学協会、研究開発機関がGS10での議論をもとに、工夫しながらの着実な取組の実施を確認
- ・パネル討論では、ジェンダー平等の進め方がただ一つではないことを参加者と共有
- ・ロンダ・シービンガー氏の基調講演では、性差技術革新の考えの重要性を、医学、機械学習、ロボット工学での事例紹介により再認識



Gender Summit 10の展開



Annual meeting

8/28,29 JST
シンガポールオフィス協力

学術

学術会議 GS10
フォローアップ 小分科会
2018/5

GS10 フォロ-アップ
学術フォーラム
2018/6/14 東京
主催：学術会議 & JST

ジェンダーデータに関するWS
2018/6/15 (明日) 東京
主催：JST & ROIS

GS10 フォロ-アップ
シンポジウム(本日)
2018/7/14 東京
主催：JST&学術会議

学会 産業界

人文社会学系
男女共同参画連絡会
(GEAHSS)設立
2017/5

日本工学アカデミー(EAJ)
ジェンダー委員会設立
2017/12

EAJジェンダーシンポジウム
「女性参画で工学が変わる、工学を変える」 東大
2018/3/31 主催：EAJ

JSTシンポジウム
「女性研究者と共に創る未来」
2018/4/14 主催：JST

EAJジェンダーシンポジウム
「女性参画で産業を変える、未来社会が変わる」京大
2019/1/16 主催：EAJ

組織・委員会

シンポジウム等



GS10 今後の展開計画案



(GS10後男女共同参画学協会連絡会シンポジウム 2017/10/14の発表資料より)

- △ 1. 年に1度のフォローアップ会議 毎年5月末
コンソーシアム設立検討 GS10関係機関を中心に **本シンポジウム開催**
- 2. 工学及び産業界のジェンダー平等の推進 **設立**
日本工学アカデミーにジェンダー委員会設立、推進（予定） **推進中**
- △ 3. 研究費配分の検証と解決策の施行 **検証済、解決策検討中（JST）**
JSTファイナディングで女性活躍検討
- ~~4~~ 4. 研究評価の改善 **検討中(学会会議)**
- 5. 国際ネットワーク活用による発信と共有 **様々な機会での発信、共有（JST）**

ジェンダーサミット東京宣言：架け橋（BRIDGE）

-Better Research and Innovation through Diversity and Gender Equality-

1. **ジェンダー平等は持続可能な社会と人々の幸福に不可欠な要素**であり、科学、技術及びイノベーションが人々の生活をどれくらい良いものにできるか、その質を左右する。それは、男女間の機会均等に加え、ジェンダーの科学的理解と**ジェンダーの差違が科学技術の主要因と捉えられ**分析されてこそ社会にイノベーションをもたらし得る。

ジェンダーと科学技術イノベーションをつなぐ

2. ジェンダー平等は17あるSDGsすべての実践に組み込まれることが必要であり、**科学技術イノベーションと共に歩むジェンダー平等は、国連の持続的な開発目標（SDGs）のそれぞれと結びつき、17すべての目標の実現を促す架け橋**となる。

SDGsをつなぐ

3. SDGsに掲げるジェンダー平等は、社会における多様性、とりわけ、**女性や女子、男性や男子、民族や人種、文化等が果たす意味や役割**を社会がどのように認識して定義しているか、その関係性を考慮して進める必要がある。それは**ジェンダー平等2.0**として、**産業界を含むすべての関係者にとって自らが取り組む持続的課題のひとつ**とすべきである。

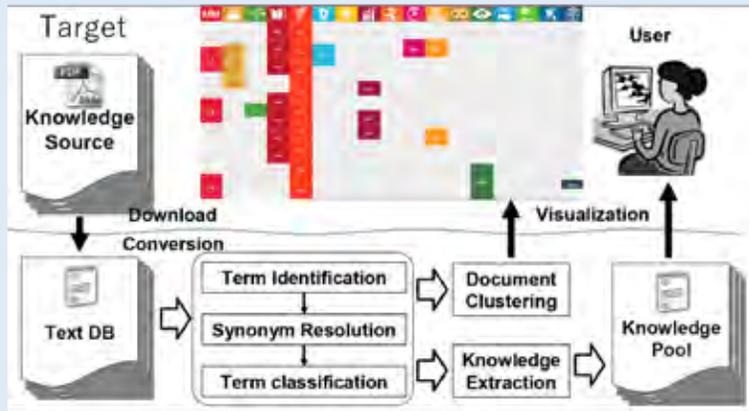
すべての人をつなぐ

ジェンダーサミットとSDGsの他の目標との関係

SDGsターゲットとの関係分析

Bridge SDGs

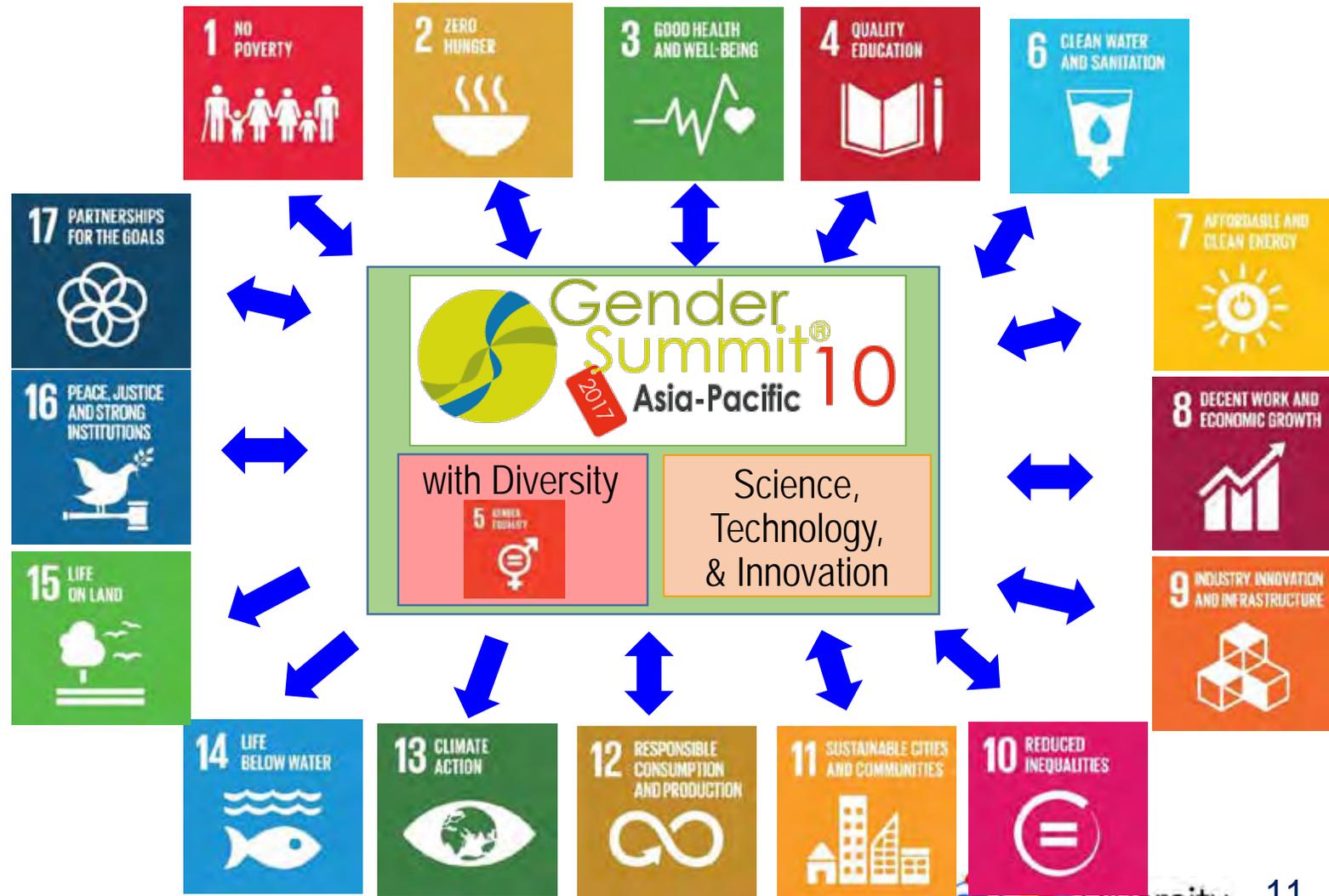
1. 自然言語解析 (NPL)法を活用
目標5 (GE)と他の目標の関係分析



Corpus (= dictionary in computer)

NPL法の解析ダイアグラム

2. 上記結果をマニュアルで確認
3. GS概念 (GE+多様性+科学技術イノベーション) と他の目標の関係分析



Gender Equality 2.0 based on Gender Equality 1.0

